

事務局からのお知らせ

【協会パンフレット完成】

このたび、NPO法人サービスグラント(<http://www.servicegrant.or.jp/>)の助成を受け、協会パンフレットを作成しました。

サービスグラントにボランティアとして登録している専門家(マーケティング、コピーライター、デザイナーなど)の方々と首都圏会員の有志の方を含め、計12名でプロジェクトを発足し、あしかけ1年、ようやく完成に至りました。このパンフレットを通して一人でも多くのケア従事者の方々にケア・カウンセリング協会のことを知っていただき、興味を持っていただきたいと思います。お知り合いの方、まとめて設置していただける施設などをぜひ紹介ください。



三つ折で正方形(14cm四方)になります。

【優待チケットの使用期限について】

2011年1月に首都圏で配布いたしました「1,000円割引優待チケット」につきましては、使用期限を2012年2月末とさせていただきます。他割引とは併用できませんのでご了承ください。なお、現在チラシなどで発行している「優待チケット」は研修日を記載しており、その他の研修ではご利用いただけませんのでご注意ください。

【メールマガジン登録のおすすめ】

研修情報など最新情報をいち早くメールでお知らせするメール配信サービスを行っています。ケア・カウンセラー派遣情報などもありますので会員の方はぜひご登録ください。登録無料です。



携帯電話からは左記QRコードにアクセスしてご登録ください。

PCからは<http://www.npojcca.org/mailmagazine.html> からどうぞ。

ケア・カウンセリングコラム

映画「RIVER」

「喪失と再生」。喪失はある日突然にやってくるが、再生の道は長く険しい。それでも、とにかく一歩を踏み出そうよ。映画「RIVER」は、そんな覚悟と引き換えに希望を手に入れた女性が主人公として描かれている。2008年6月に起きた秋葉原無差別殺傷事件、2011年東日本大震災、一瞬にして昨日までの生活が変わってしまう現代社会に生きる我々は、主人公のひかりを他人事として見ることはできないだろう。

この映画は饒舌ではない。言葉のメッセージを待っていてもやってこない。からだで何かを感じ取らなくてはならない。そして自らの言葉を立ち上げる試練が待ち受けている。秋葉原という街の空気、透明でドライな感じ、その中でひかりが出会う様々な人間模様。

ケア従事者の我々が感じ取るものは、静かで熱い、何かだろう。(by スペンサー)

(2012年3月10日<土>渋谷ユーロスペースほか全国順次ロードショー)

ケア・カウンセリング 通信

発行：日本ケア・カウンセリング協会 <http://www.npojcca.org/> 協会郵便振込口座 00110-7-147466
編集：〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-8 音羽小峰マンションズ1階
TEL&FAX:03-6912-2605 E-mail:npo-jcca@npojcca.org

vol.
42

2012年1月発行

「絆」

代表理事 品川 博二

昨年末、日本漢字能力検定協会は、2011年を表す漢字は「絆」と発表した。言うまでもなく東日本大震災からの復興の願いを、この絆という文字に込めたものであろう。この大災害から立ち上げる為には、何よりも人々の固い結びつきが求められるからである。しかしながら、この「絆」を肯定的な人間関係の意味だけに了解すると、その本質を受け留めそこなうだろう。もともと「絆」という漢字の語意は、馬などの動物を繋げておく拘束の紐の意味だったという。すると、「絆」の表面的・肯定的な意味の奥にはさらに深い意味が広がるのである。

ケア・カウンセリングでは、人格の構造は言語を媒介とした「目的志向性と他者との共同性」によって構成されると考える。自己の欲望を「他者の協力が得られるような目的」に洗練して提案できなければ、その目的の実現性は低くなる。また、他者との強固な連携があれば、実現可能な目的の可能性は広がるからである。いま、私たちは大災害からの復興という困難な目的を担っている。まさに、これが「固い絆」が求められる所以である。「固い絆」とは簡単に逃げ出せない「拘束の関係」なのだ。

その目的が困難であればあるほど、「絆」のストレス・トレランス(ストレス耐性度)が求められる。安易な関わりは、ちょっと面倒な目的の前には容易く崩れ去るだろう。逆に簡単に「逃げられない関係」を自ら維持する者は、高い志を失わない者なのだ。

視点を私たちの協会に向ければ、理事・参事・役員の皆さんたちには、無報酬にもかかわらず面倒な役割関係をお引き受けいただいている。「何かを止める理由」より「それを担う理由」を自ら求めて、協会活動に取り組んでくださる姿に、まことに熱い連帯感を思う。この仲間たちとの「絆」によって、「私」にもたらされる目的を認識する為、この日本ケア・カウンセリング協会がある！そんな思いを再認識させてくれるのがこの「絆」という漢字であった。

東北支援プロジェクト報告

1月14日 盛岡「支援者のための行動形成法」参加レポート

根本 亜紀

雪の降る中、会場に着くと、クラシカルな建物に魅せられました。飲み物や、参加者の名札等が準備されている様を見て、プロジェクト関係者の気遣いや温かさを感じました。

午前は品川先生の講話、午後は行動形成法でした。私は、盛岡でボランティア活動をされている方々と、シェアリングをさせて頂きました。その中で「協会でも専門的な勉強されている方々に、お力を貸して頂きたいです。私達は、良く分からずにやっているものですから」というお話を頂きました。支援者の為の支援というニーズを、生の声から実感しました。“支援疲れ”を予防・緩和する為にも、支援者を対象としたこの東北支援プロジェクトは必要で、また、広く大きな意味があると感じました。

自己満足かもしれませんが、ケア・カウンセラーとして実際に東北に出向いて関わりを持ったことで、僅かながらも寄り添うことができたのではないかと、という気持ちを味わうことができました。

第12回 総会報告

総会議決報告



品川博二代表理事



中山康子先生

第12回総会が2011.11.19～20、東京の晴海グランドホテルで開催されました。品川代表理事から「災害ストレスとケア・カウンセリング」の基調講演は『騒然の死者と沈黙の生者』でした。このテーマは以前に公表されています。「これを書いたときと今では気持ちは変化しているがあえて手を加えずそのままを伝えたい」と朗読してくださいました。先生の生の声を、聞いている人の心のありようで受け止めていたと思います。声をあげて泣きたい人も多かったと思います。この基調講演から参加した人の心が一つになりました。

「東日本大震災とケア従事者」「～私の震災体験から～」の講演が緩和ケア支援センター 虹・代表中山康子先生からありました。千年に一度のこの出来事で心も体も痛み、「受容など決してできない、受容の言葉は嫌いだ・・・」と言われている。私も受容などできるはずがないと思います。大きな痛みを抱えながら、ピンチをチャンスに変換しながら自分のやりたいことにエネルギーを使い前向きに生きようとしている姿にみんなが元気をもらいました。ありがとうございました。

そしてシンポジウムに参加してくれた代表の方々、素晴らしかったです。盛岡復興支援センター長様、現実を呼び戻してくれたビデオ、私たちは辛いがしっかりと見なければいけません。

災害の直後から仲間のために働いてくれた東北のTさんの思い、頭が下がります。やはり災害直後から東北の仲間を心配してくれた関東のTさんの思い、気付いて傷ついた思い、勉強になりました。津波を目の前で見て私たちの想像を超えた世界で確かな判断をし、患者さんや避難してきた人に悪戦苦闘されたWさん、津波がここまで来たところに桜を植えたという、何と素晴らしい、絶対にその成長を見に行きたいと思いました。有意義なシンポジウムでした。

総会での議案1～5の全てが賛成多数で可決されました。「心の訪問ケア」協会として今社会から求められている、このことに一歩を踏み出したい、しかしそこには「安全管理・危機管理」の問題がある。実践に向けての課題も残されました。

専務理事 宮本ひろ子



シンポジウム『東日本大震災と私』

議案1

東日本大震災・復興支援に向け、「東北支援・協会プロジェクト」の自立的継続的な活動を他の関係団体との連携を通して行う。またこの為の「東北支援金」を会員および一般から寄付を募る。

- 各研修会場等での募金の他、研修収益の一部を基金に活用する。
- 今後とも助成金獲得を継続的に社会・企業に働きかける。

議案2

社会事業として、「心の訪問ケア」プロジェクトの試行モデルの実験。

- 地域の訪問看護ステーション他、関係団体等と連携を取り、訪問ケア、在宅ケア事業のカウンセリング的サポートを試みる。
- 協会よりケア・カウンセラー(1～2級)を派遣する。
- 試行的に東北エリア支部及び首都圏支部で試行モデルを実験する。
- 「心の訪問ケア」(協会プロジェクト)実行委員会を設置し、詳細を検討する。

議案3

協会研修事業の安全管理と事故調査の専門委員会を発足させる。

- 行動形成法をはじめ、研修プログラムにおける、安全管理と事故調査に関する専門委員会(安全調査委員会)を設け、経常的な問題解決に取り組む。
- 事故に対処する為に、ボランティア保険等の加入を検討する。

議案4

ケア・カウンセラー養成制度の資格要件の緩和と強化。

- ①基礎課程初級・中級・上級各級の必修①②③の計45単位(15単位×3)を取得した者に、ケア・カウンセラー4級の受験資格を認める。
- ②基礎課程修了(必修+選択+ワークショップもしくは実習)の全単位(105)を取得した者に、ケア・カウンセラー4級の書類選考の審査を認める。
- ③上記②に該当する者で、協会正会員を1年以上経過したケア従事者は、同時にケア・カウンセラー3級の受験資格を認める。
- ④「派遣ケア・カウンセラー」(1・2級登録者より選考)の客観評価システム(筆記と複数試験官による口頭試問、および実技試験等)を補強する。
- ⑤ケア・カウンセラー1級受験に「試行カウンセリング」(クライアント体験)を必修とする。(「クライアント体験7回と報告レポートの提出」)
- ⑥研修単位の単価を減額する。
 - 1単位の単価を¥2,000から¥1,000とする。
 - エリア・マネージャー制導入による、各エリア支部独自の料金設定が可能となったことを受け、比較的低額の研修への単位取得に対応する。
- ⑦以上の①～⑥は昨年度総会で承認された「ケア・カウンセラー資格委員会」を「ケア・カウンセラー教育研修委員会」に再編し、さらに詳細を検討し、実行する。

今年度決算書・次年度予算案

*予算案、決算書は別紙報告

総会への報告

(以下、団体・個人とも敬称略)

新年度協会役員選挙にて新役員が選出されました。

代表理事 品川博二

専務理事 宮本ひろ子

理事 (北海道) 村上則子・鈴木くに子・田上敬子 (東北) 佐々木勝信・滝村節子・福井敦子
 (首都圏) 荒木桂子・小川美智子・相澤久美 (中部) 井戸悦子・豊田裕子
 (関西) 原田真由美・長畑卓治・岩里さち子 (中・四国) 宇佐川桂子・西山信子
 (九州) 浦 弘得・緒方恵美子

東日本大震災への会員よりの義援金(以下のマスコミ・団体に計60万円)を送金しました。

IBC岩手放送・盛岡タイムス・岩手日報・朝日新聞・河北新報・もりおか復興支援センター

東北支援プロジェクト・災害支援特別研修講座の開催

→ 三菱商事(250万円)、日本財団(100万円)様より災害支援助成金を得て「東北支援協会プロジェクト」支援研修講座を展開いたしました。

- ①「災害ストレスとケア・カウンセリング」(支援者への研修サポート)仙台・盛岡の各会場で、本年5月～来年3月まで継続中。
- ②もりおか復興支援センターに支援講座「支援者の為の心理技術研修講座」を協会の支援にて開設(講師・スタッフの無料派遣)。センター専属スタッフ及びボランティアに連続研修を実施中。
- ③被災地における団体に認定講師およびスタッフを派遣。公益社団法人日本オストミー協会(盛岡大会)・岩手県立宮古病院・宮古市立津軽石中学校・介護スマイル文化祭(仙台)
- ④東北支援協会プロジェクトに以下の団体から後援をいただきました。(順不同)

岩手県・宮城県・仙台市・朝日新聞仙台総局・岩手県看護協会・時事通信社・宮城県看護協会・宮城県訪問看護連絡協議会・東北福祉大学・岩手朝日テレビ

宮城県介護研修センター・盛岡タイムズ社・岩手県理学療法士会・IBC岩手放送・NHK盛岡放送局・盛岡市医師会・NPO法人緩和ケア支援センター虹(協力)・NPO法人介護者応援ネットワークみやぎ(協力)他

ケア・カウンセリング協会表彰

- ①ケア・カウンセリング協会功労賞(5万円)
 (団体)首都圏エリア支部
 → 東日本大震災における初動の援助活動の展開。
 (団体)もりおか復興支援センター
 → 協会災害支援研修の連携団体としての活動と協力。
- ②特別表彰
 個人滝村節子(東北支援協会プロジェクト・コーディネーターの功績)
 同佐々木勝信(瑞宝章双光章受賞の顕彰)

認定講師資格審査で以下の皆さんが資格を取得されました。

<認定助講師>村上則子・福井敦子・荒木桂子・小川美智子・脇坂三位子
 <認定講師補>工藤和香子・東海知恵子・須田ちひろ・多部良子・相澤久美・高阪悠二・小林信子

新たな関係団体と活動を連携しています。

- 1.盛岡復興支援センター
 (協会参与澤田貴子)
- 2.小規模多機能みのり丸山(横浜)
 (協会参与加藤よし見)
- 3.「沖縄がん心のケア研究会」
 (協会参与豊見山喜美)
 → 2012年5月、沖縄にて、研究会代表の保坂隆先生(聖路加国際病院精神腫瘍科、聖路加看護大学教授、精神科医)と代表理事品川博二との共同講演が予定されています(詳細は決まり次第広報します)。

下の団体に協会認定講師およびスタッフを派遣しました。

- 1.北海道看護協会、栃木県看護協会・(新人看護職員研修)、千葉県看護協会(新人看護職員担当者研修)、岩手県看護協会(セカンドレベル)、静岡県西部地区看護代表者会
- 2.札幌医大看護部(看護師長研修)、札幌学院大学(社会連携センター)、旭川歯科衛生士会、小樽栄養士会、秋田労災病院(新人看護職員研修)、埼玉医大(看護師長研修)
- 3.美濃加茂市健康福祉部、千葉県こども病院、横浜船員保険病院、赤穂市民病院(新人看護職員研修)
- 4.宮城県介護研修センター、千葉県社会福祉協議会、群馬県社会福祉協議会、千葉県さんむ市社会福祉協議会、千葉県鴨川市ケア・マネージャー連絡協議会、神奈川県介護福祉士協会、秦野市ホームヘルパー協会、千葉県福祉プラザ講座、介護なんでも文化祭(東京)、介護すまいる文化祭(仙台)、千葉県茂原介護福祉施設研修
- 5.沖縄「愛さん会」(厚労省ファミリーサポート)、財団法人佐賀県臓器バンク、他

